

1 各部門の最優秀賞の講評

(1) 個人花壇の部（上級）

上級の部は実力者3名で、それぞれが特色を発揮した見事な花壇であったが、最優秀者は庭全体としての構成、配色が良く、調和のとれた花壇であった。高温期にもかかわらず草丈もコンパクトにまとめられ、整然とした景観が演出されていた。

(2) 個人花壇の部（一般）

参加者それぞれが個性ある装飾をして見応えのある花壇で、審査員の評価も全体的に高かった。最優秀者は入口門扉の両側を鉢植えで飾り、品性と豪華さを合わせ持ったものであった。特に、サンパチェンス、ブーゲンビレアの花はインパクトがあり、夏の日差しに見事に映えていた。

(3) 共同花壇の部（上級）

大花壇が多く、特別な暑さと長期間降雨のない乾燥の中で、懸命な努力の跡を感じる所が多かった。

最優秀者は、酷暑の夏を予期した草花選択が徹底しており、植栽された草花も嬉々として元気に育てられていた。日頃のかん水や花がら摘み、草取りも徹底されており、見る人に元気を与えてくれる見事な花壇であった。

大花壇では、自動かん水装置を導入することにより省力化だけではなく、草花の生育に適した水管理が行えるので、今後検討をしていただけると良い。

(4) 共同花壇の部（一般）

細長い花壇の手前から、マツバボタン、マリーゴールド、メランポジウム、一番後ろに背の高いノゲイトウが植えられ、草丈の高低を立体的に見られた。花がら摘みや草取りもしっかりとできていた。

共同花壇全体的に水切れの状態が多く見られた。夏の時期は早朝の十分なかん水の必要性を感じた。

(5) 保育園・学校花壇の部

道を挟んだ左右の花壇に、サルビア、メランポジウム、ニチニチソウが同じような図柄で植栽され、花揃えは良く、株は隙間なく生育して、今が一番と言わんばかりに生きいきとしていた。花がら摘みや草取りも徹底されていた。

2 総評

異常気象に伴い、梅雨時の長雨、その後の高温、乾燥の中での花の管理は精神的、肉体的にも苦労が多かったと思われる。そのような中で、花がら摘みや草取りなどの基本的な管理は行き届いていた。多くの花壇でコキアが植栽され、夏花壇を引き立てていた。

令和5年（2023年）8月10日

審査員

名古屋市みどりの協会 緑の相談員 谷 澤 隆
梶 田 靖